

## 【様式1】

団体名 南城市立 百名小学校	連絡先 TEL : 098-948-1012 Eメール : <a href="mailto:hyakusho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp">hyakusho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp</a>
----------------	---

### 1 実践事項（言語指導）

タイトル：「読みの流暢性を高める指導の工夫～多層指導モデルMIMの活用を通して～」

### 2 実践内容

「読みの力」は「書きの力」にも直結することが多く、全ての教科に影響が大きいいため、ひらがなの学習入門期に読みの流暢性を高める支援が必要だと考えた。そこで、「多層指導モデルMIM」を1年生の学級と特別支援学級に取り入れ、定期的にあセスメントを実施し、個に応じた指導を充実させることで「読み」の力を伸ばすことができると考え実践に取り組んだ。

### 3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）



1学年の授業では、特殊音節（促音）の規則の明確化を視覚化と動作化で行った。まず初めに、左図のように、ドット図を使用し、ドット図で音の特徴を表す（ねこなら●●、ねっこなら●●●）ことを伝えた。次に、動作化について大きいドット●は手を一回叩き、小さいドット●のところは両手を握り、音を出さないようにすることを指導した。音と動作、そこに、文字を対応させることをルールとして最初に指導した。特殊音節の規則をドット図や

絵カード等、教材・教具を工夫して活用したことにより、ルールへの理解が深まり、楽しみながら学習を進めることができた。また、授業の後半では、ノートへの記述指導を行ったが、学んだことを生かし、動作化をしながら、ノートに文字を書き込む児童も見られた。

### 4 成果

7月の第1回目のアセスメント評価の分析から、特に個別の指導が必要と思われる4人の児童を対象に、朝の自習時間（8時15分～8時30分）において集中的に個別指導を行った。その結果、10月初旬に行った第2回アセスメント評価では、4人の児童とも総合得点において得点の向上が見られた。特に児童Aにおいては、高い得点の向上がみられた。9月からの個別指導の成果であると考えられる。

### 5 課題

10月初旬以降は特に特別な手立てを講じることがなかったことから、11月のアセスメント評価においては、総得点において得点を下げる結果となった（他の児童3人にも同じ傾向が見られた）。

MIMの活用による指導の成果を維持、向上させ、児童の読みの流暢性を高めるためにも継続的な指導が必要であると考えられる。

